



Arysta LifeScience

寄生性天敵によるハモグリバエ類の防除に!

農林水産省登録第21518号

ミドリヒメ[®]

ハモグリミドリヒメコバチ剤

25頭/15ml容量、50頭/30ml容量

- ◆ミドリヒメは、ハモグリバエ類に寄生する日本土着の天敵寄生蜂です。
- ◆成虫は全てメスで、作物の葉に潜入したハモグリバエ類の幼虫を深索し、交尾を行うことなく、産卵します（産雌性単為生殖）。
- ◆成虫1頭当たりの生涯産卵数は、ハモグリバエ類に産卵する他の天敵寄生蜂より多く、約300卵です。
- ◆高温条件（30～35℃）に強く、長い期間ハモグリバエ類の密度を抑制します。

ハモグリバエの害、こうなる前に



ハモグリ幼虫の体内で成長して蛹になる。写真は蛹を葉から取り出したところ。



ハモグリ幼虫の体内で成長するミドリヒメの幼虫。



ミドリヒメに寄生されたハモグリ幼虫：体は平たくなり、褐色から黒色になる。

◆適用害虫と使用方法◆

(2013年10月の登録内容)

作物名	適用病害虫名	10a当たり 使用量	使用時期	使用方法	総使用回数*
野菜類 (施設栽培)	ハモグリバエ類	100頭	発生初期	放 飼	—

*は本剤及びハモグリミドリヒメコバチを含む農薬の総使用回数

◆ミドリヒメの使い方◆

- ハモグリバエ類の発生が多い作物の株元に開封・静置してください。
- ミドリヒメ成虫は飛翔して、葉に潜入したハモグリバエ類の幼虫を探索し、産卵・寄生することで密度を抑制します。
- ハモグリバエ類の発生初期より7～10日間隔で数回放飼すると効果的です。
- ハモグリバエ類の生育密度が高い場合は、ミドリヒメに影響の少ない薬剤（下表参照）で密度を下げてから放飼してください。
- アブラナ科植物につくナモグリバエには高い効果が期待できないのでご注意ください。



◆ミドリヒメ成虫に対する農薬の影響◆

(浸漬試験 7日後の成虫生存率より)

影響のある薬剤	アーデント、アクタラ、アグロスリン、アディオン、アドマイヤー、アファーム、スタークル/アルバリン、オルトラン、スピノエース、スミチオン、ダイアジノン、ダントツ、トレボン、ハチハチ、ベストガード、ボタニガードES、マラソン、モスピラン、コテツ、ダニトロン、粘着くん、ピラニカ、イオウフロアブル
やや影響のある薬剤	バリアード、ラノー、アカリタッチ、コロマイト、サンマイト、テデオン、サンヨール、ハーモメイト
影響の少ない薬剤	アタブロン、アプロード、カウンター、カスケード、ジャックポット(Bt剤)、チェス、トリガード、トルネード、ノーモルト、フェニックス、ブレオ、ブレバソン、マイコタール、マッチ、カネマイト、ニッソラン、バロック、マイトコーネ、モレスタン、アミスター、ジマンダイセン、ストロビー、スミレックス、セイビア、ダコニール、トップジン、トリフミン、バイレトン、バチスター(Bs剤)、バリダシン、ベルクート、ベンレート、ポリオキシン

◆効果・薬害等の注意◆

- ハモグリバエ類の幼虫に寄生する天敵ハモグリミドリヒメコバチ成虫を含有する製剤です。
- 入手後速やかに使用し、使いきってください。
- ハモグリバエ類が増えてからの放飼では、抑えるまでの被害が大きくなるので、ハモグリバエ類を見ついたら、出来るだけ早くミドリヒメを放飼してください。
- ハモグリバエ類の生息密度が高くなってからの放飼は十分な効果が得られないことがあるため、ハモグリバエ類の発生初期より7～10日間隔で放飼してください。
- ハモグリミドリヒメコバチの活動に影響を及ぼすおそれがあるので、放飼前後の薬剤散布は避けてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、また適用作物群に属する作物・品種によっては効果が十分に発揮されない場合があるので、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

●ラベルをよく読んでください。

●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。

●空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

製造元：琉球産経株式会社

〒901-0242 沖縄県豊見城市字高安586番地

TEL:098-850-7791 FAX:098-856-1856

<http://www.ryukyusankei.co.jp>

販売元：アリストライフサイエンス株式会社

〒104-6591 東京都中央区明石町8-1

TEL:03-3547-4415 FAX:03-3547-4695

<http://www.agrofrontier.com>